

特別展 ならこくりつはくぶつかん まるごと奈良博

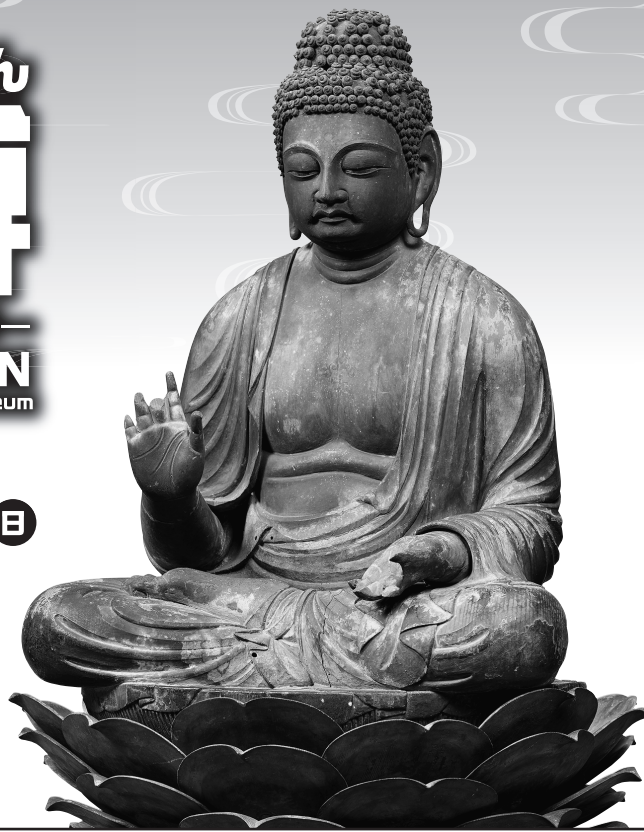
—奈良国立博物館 至高の仏教美術コレクション—
ALL THINGS NARA EXHIBITION
The Extraordinary Buddhist Art Collection of the Nara National Museum

2024. 7.6(土) ▶ 8.25(日)

前期[7月6日(土)～7月28日(日)] 後期[7月31日(水)～8月25日(日)]

◎出品目録◎

- 会場：石川県立美術館 第2・7・8・9展示室
■主催：「まるごと奈良博」展実行委員会（石川県、石川県立美術館、北國新聞社）
■特別協力：奈良国立博物館
■特別協賛：DMG森精機
■後援：一般財団法人石川県芸術文化協会、石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教育委員会、金沢市教育委員会、NHK金沢放送局、MRO北陸放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送、石川テレビ放送、金沢ケーブル、エフエム石川、ラジオかなざわ・こまつ・ななお



【凡例】

- ・作品番号は、展示の順番とは一致しませんが、本展図録の作品番号および会場内の番号と一致します。
- ・◎は国宝、○は重要文化財です。
- ・一部の作品は展示替えを行います。また、都合により展示作品を変更する場合があります。
- ・所蔵先の記載のない作品はすべて奈良国立博物館の所蔵品です。

番号 指定	作品名	員数	時代	前期 (7/6～7/28)	後期 (7/31～8/25)
-------	-----	----	----	------------------	-------------------

第1章 ブッダの造形

仏教はいまから約2500年前、古代インドのシャカ族の王子だったゴータマ・シッタータ（釈迦）が、この世の真理を悟ってブッダ（仏）となり、その教えを人々に説いたことにはじまります。歴史上唯一のブッダである釈迦への尊崇の高まりとともに、紀元1世紀頃にインド西北のガンダーラ地方（現パキスタン北西部～アフガニスタン南東部）やインド北部のマトゥラー地方においてブッダの姿を写した仏像が初めてつくられるようになりますが、仏像のかたちは「誕生」「成道（悟りを開く）」「初転法輪（初の説法）」「涅槃（死）」など、釈迦の生涯にわたる伝記の各場面に登場する姿が典拠となりました。こうしてインドで誕生した仏教美術は、中央アジアから中国、朝鮮半島、日本へと伝播する過程で、地域に根ざした特色ある主題や造形を生み出しながら、さまざまに展開していくのです。



1	浮彫仏伝図	1 基	クシャーナ朝（2～4世紀）		
2	菩薩立像	1 軀	クシャーナ朝（3～4世紀）		
3	◎ 十一面観音菩薩立像	1 面	中国・唐 長安3～4年(703～704)		
4	誕生釈迦仏立像	1 軀	飛鳥時代（7世紀）		
5	出山釈迦如来立像	1 軀	南北朝時代（14世紀）		
6	◎ 釈迦三尊像	3 幅	鎌倉時代（13～14世紀）		
7	◎ 梵鐘	1 口	中国・陳 太建7年（575）		
8	◎ 仏涅槃図	1 幅	中国・南宋（13世紀）		

第2章 飛鳥・白鳳・天平の古代寺院

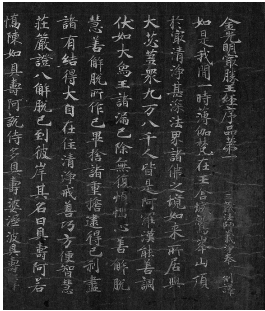
日本に仏教が公式に伝わったのは、飛鳥時代、西暦552年（あるいは538年）のことといわれます。大陸から渡って来た人々が初めてもたらした仏像の金色に輝く神々しい姿は「異国の神」として崇められました。これ以降、飛鳥の地（奈良県明日香村）を中心に本格的な寺院の造営が始まり、7世紀後半の白鳳期になると、中国・初唐期や朝鮮半島の仏教文化から大きな影響を受けた寺院が営まれるようになります。和銅3年（710）に都が平城京、すなわちここ奈良の地に定められると、遣唐使がもたらした高度な仏教知識と最新の技術を駆使した天平文化が花開き、国家仏教を支える巨大寺院が次々と建立されました。本章ではこうした古代寺院の姿を、かつて堂塔を飾った古瓦や埴土、信仰の核となった金銅仏をはじめとする仏像、寺院の実態を伝える文書類によって概観します。



番号	指定	作品名	員数	時代	前期 (7/6～7/28)	後期 (7/31～8/25)
9		方形独尊坐像塼仏（中国出土）	1面	中国・北齊～隋（6～7世紀）		
10		方形三尊塼仏（中国出土）	1面	中国・唐（7世紀）		
11		塑像片（鳥取県斎尾廃寺出土）	一括	飛鳥時代（7世紀）		
12		六角形塼仏（伝三重県天華寺出土）	2面	飛鳥時代（7世紀）		
13		火頭形三尊塼仏（伝奈良県橘寺出土）	1面	飛鳥時代（7世紀）		
14		塑像片（奈良県定林寺出土）	1個	飛鳥時代（7世紀）		
15		奈良県霊安寺塔跡出土品	一括	平安時代（8～9世紀）		
16		鬼面文鬼瓦（伝奈良県中山瓦窯出土）	1面	奈良時代（8世紀）		
17		人面付蓮華文鬼瓦（伝滋賀県八島廃寺出土）	1面	飛鳥時代（7世紀）		
18		瓦塔（静岡県浜松市出土）	1基	奈良～平安時代（8～9世紀）		
19	◎	僧道葉墓誌・骨蔵器	2個	奈良時代 和銅7年（714）		
20	◎	山代忌寸真作墓誌	1面	奈良時代 神亀5年（728）		
21		行基墓誌断片	1個	奈良時代 天平21年（749）		
22		単弁八弁蓮華文軒丸瓦（伝奈良県山田寺出土）	1個	飛鳥時代（7世紀）		
23		単弁八弁蓮華文軒丸瓦（伝奈良県横井廃寺出土）	1個	飛鳥時代（7世紀）		
24		パルメット文隅木蓋瓦（伝和歌山県上野廃寺出土）	1個	飛鳥時代（7世紀）		
25		複弁八弁蓮華文軒丸瓦（伝奈良県川原寺出土）	1個	飛鳥時代（7世紀）		
26		単弁八弁蓮華文軒丸瓦（伝奈良県山村廃寺出土）	1個	飛鳥時代（7世紀）		
27		均整忍冬唐草文軒平瓦（伝奈良県山村廃寺出土）	1個	飛鳥時代（7世紀）		
28		複弁八弁蓮華文軒丸瓦（伝奈良県東大寺出土）	1個	奈良時代（8世紀）		
29		均整唐草文軒平瓦（伝奈良県東大寺西塔出土）	1個	奈良時代（8世紀）		
30	◎	造東大寺司請経牒	1巻	奈良時代 天平勝宝7歳（755）		
31	◎	民部省符	1幅	平安時代 延長4年（926）		
32	◎	弘福寺牒並大和国判	1巻	平安時代 延久4年（1072）		
33	◎	七大寺日記	1帖	鎌倉時代 建長7年（1255）		
34		如来立像	1軀	飛鳥時代（7世紀）		
35		観音菩薩立像	1軀	飛鳥時代（7世紀）		
36	◎	薬師如来坐像	1軀	奈良時代（8世紀）		
37	◎	十一面観音菩薩立像	1軀	奈良～平安時代（8～9世紀）		

第3章 写経に込められた祈り

釈迦が説いた教えを弟子たちが書き記した聖典である「スートラ」は、中国に伝わると漢文に翻訳されて「経」「經典」と呼ばれ、東アジア各地に広まりました。仏教の伝来とともに日本に漢訳經典がもたらされると、これをもとに經典の書写が国内でも行われるようになります。特に奈良時代には、国家事業として官立の写経所において膨大な数の写経が行われ、唐経を手本とした端正な文字の経巻が各所に備えられました。平安時代になると、貴族たちの間で個人的な祈願成就を目的とする写経が流行し、文字や料紙を美しく飾る装飾経も盛んに制作されるようになります。またこの時代には釈迦の教えがすたれる末法の世の到来が信じられたことから、書写した經典を後世に伝えるためタイムカプセルのように土中に埋納する経塚が各地に営まれ、かたく丈夫な素材に経文を刻む瓦経などもつくられました。

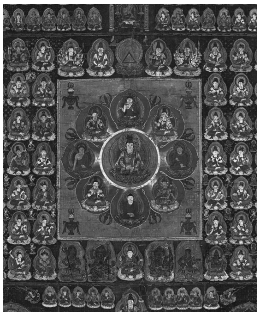


38	◎	絵因果経	1巻	奈良時代（8世紀）		
39		大智度論 卷第六十六（播磨国既多寺知識経）	1帖	奈良時代 天平6年（734）		
40	◎	灌頂随願往生经（石川年足願経）	1巻	奈良時代 天平9年（737）		
41		阿闍世王经 卷下（五月一日経）	1巻	奈良時代（8世紀）		
42	◎	華嚴经 卷第七十	1巻	奈良時代（8世紀）		
43	●	金光明最勝王经（国分寺经） 卷第三・卷第七	10巻のうち2巻	奈良時代（8世紀）	半期1巻ずつ	
44		華嚴经 卷第五十（泉福寺经）	1巻	平安時代（12世紀）		
45	◎	一字宝塔法華经 卷第五	1巻	平安時代 長寛元年（1163）	半期巻替え	
46		大般若经 卷第四百六十（中尊寺经）	1巻	平安時代（12世紀）		
47		大般若经 卷第三百四十五（神護寺经）	1巻	平安時代（12世紀）		
48	◎	法華经 卷第三・卷第七	8巻のうち2巻	平安時代（12世紀）		
49	◎	金光明最勝王经 卷第二残卷	1巻	鎌倉時代 永仁2年（1294）		
50	●	蓮唐草蒔絵経箱	1合	平安時代（12世紀）		
51	◎	鳳凰文戱金経箱	1合	中国・元（14世紀）		

番号	指定	作品名	員数	時代	前期 (7/6～7/28)	後期 (7/31～8/25)
52	◎	弥勒如来坐像（長崎県鉢形嶺経塚出土）	1 軀	平安時代 延久 3 年（1071）		
53		経筒・外筒・法華経（和歌山県粉河経塚出土）	一括	平安時代 天治 2 年（1125）		
54	◎	宝塔形経筒・如来立像（伝福岡県出土）	一括	平安時代 永久 4 年（1116）		
55		飛鳥文経筒（伝愛媛県松山市出土）	1 口	平安時代（12世紀）		
56		瓦経（福岡県飯盛山経塚出土）	1 枚	平安時代（12世紀）		
57		泥塔経（伝鳥取県智積寺跡出土）	一括	鎌倉時代（13～14世紀）		
58	◎	経筒・外筒（伝福岡県出土）	2 口	平安時代 保延 7 年（1141）		
59		経筒（伝大分県出土）	2 口	鎌倉時代 承久 2 年（1220）		
60		青磁経筒	1 口	中国・元（13～14世紀）		
61	◎	釈迦霊鷲山說法図	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
62		法華経曼荼羅（第一・四幅）	7 幅のうち 2 幅	鎌倉時代（13～14世紀）		
63	◎	普賢菩薩像	1 幅	平安時代（12世紀）		
64	◎	普賢十羅刹女像	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		

第 4 章 密教の聖教とみほとけ

平安時代初期、新しい仏法を求めて中国にわたった最澄や空海をはじめとする入唐僧によって、本格的な密教が初めて日本に伝えられました。呪術的な祈りによって人々の願いをかなえる密教では、さまざまな祈願を目的とする「修法」と呼ばれる実践的な儀礼を行います。特に真言宗や天台宗の密教寺院には、修法の本尊や次第内容に関する口伝や規則などを記した文書・記録である「聖教」が脈々と継承されてきました。また、空海の言葉に「密教は奥深いため、文章のみで真理を伝えることは難しいので、図画を用いてこれを示すべきである」とあるとおり、密教では曼荼羅などの画像を本尊として重視します。このため、多くの顔や手をもつ菩薩や、怒りをあらわにする明王など、密教独自のほとけを表した仏像・仏画の優品が数多く残されたのです。



65	◎	弘法大師御勘文 上巻	1 巻	平安時代（12世紀）		
66	◎	弘法大師二十五箇条御遺告	1 巻	南北朝時代 暦応 2 年（1339）		
67	◎	金剛般若集驗記	1 帖	平安時代 承暦 3 年（1079）		
68	◎	雑筆集	5 巻のうち 1 巻	鎌倉時代（13世紀）		
69	◎	類秘抄	4 巻のうち 2 巻	鎌倉時代 承久 2 年（1220）		
70	◎	神泉苑請雨経法道場図	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
71		立川流儀軌残巻	1 巻	南北朝時代（14世紀）		
72	◎	胎藏図像	2 巻	鎌倉時代 建久 5 年（1194）	半期 1 巻ずつ	
73	◎	諸観音図像	1 巻	平安時代（12世紀）		
74	◎	不動儀軌	1 巻	鎌倉時代 寛元 3 年（1245）		
75	◎	両界曼荼羅（厨子入）	2 面	鎌倉時代（13世紀）	半期 1 枚ずつ	
76		両界曼荼羅	2 幅	鎌倉時代（14世紀）		
77	◎	両界曼荼羅・俱利伽羅龍剣二童子像	3 幅	鎌倉時代（13世紀）		
78	◎	一字金輪曼荼羅	1 幅	平安時代（12世紀）		
79	◎	大仏頂曼荼羅	1 幅	平安時代（12世紀）		
80	◎	尊勝曼荼羅	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
81		六字経曼荼羅	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
82		阿弥陀如来坐像	1 軀	平安時代（9 世紀）		
83	◎	如意輪観音菩薩坐像	1 軀	平安時代（9～10世紀）		
84	◎	如意輪観音像	1 幅	鎌倉時代（14世紀）		
85	◎	文殊菩薩像	1 幅	南北朝時代 建武元年（1334）		
86	◎	普賢延命像	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
87	◎	虚空蔵菩薩像	1 幅	鎌倉時代（14世紀）		
88		五大明王像	5 軀	平安時代（10～11世紀）		
89	◎	不動明王八大童子像	1 幅	鎌倉時代（13～14世紀）		
90		大威徳明王騎牛像	1 軀	平安時代（12世紀）		
91		大威徳明王像	1 幅	鎌倉時代（14世紀）		
92		両頭愛染明王像	1 幅	南北朝時代（14世紀）		
93	◎	獅子	1 軀	平安時代（11世紀）		
94		獅子	1 軀	鎌倉時代（13世紀）		

番号	指定	作品名	員数	時代	前期 (7/6～7/28)	後期 (7/31～8/25)
----	----	-----	----	----	------------------	-------------------

第5章 仏教儀礼の荘厳

六世紀の半ばに日本に仏教が伝来した当初、大陸から仏像や経典とともに「幡」「蓋」が一緒にもたらされたことが示すとおり、仏の礼拝供養や経典の読誦などを行う仏教儀礼において、天蓋・幡・華鬘などの荘厳具で仏堂内を飾ることが重視されます。またこうした法会では、僧侶が打ち鳴らす磬などの梵音具、僧侶が威儀を整えるために手にする如意などの僧具も欠かせません。さらに修法や加持祈祷などの実践的な儀礼を行う密教では、行者に特殊な力を授けるとされる法具類が特に重視されました。例えば、鈇と呼ばれる角のような刃がつく金剛杵など、古代インドの武器に由来するというその神秘的な造形は、これを手にする行者の身を護り、修法の成就を助けるものとされたのです。本章ではこのように儀礼空間を荘厳してきた仏教工芸の魅力を紹介します。



95	宝塔	1 基	室町時代（15世紀）		
96	獅子座火焰宝珠形舍利容器	1 基	南北朝時代（14世紀）		
97	密観宝珠嵌装舍利厨子	1 基	室町時代（15世紀）		
98	金銅能作性塔	1 基	南北朝～室町時代（14～15世紀）		
99	愛染明王香合仏	1 合	平安～鎌倉時代（12～13世紀）		
100	愛染明王香合仏	1 合	平安～鎌倉時代（12～13世紀）		
101	● 牛皮華鬘	4 枚	平安時代（11世紀）	半期 2 枚ずつ	
102	◎ 種子華鬘	2 枚	鎌倉時代（13～14世紀）	半期 1 枚ずつ	
103	菊牡丹文彩色華鬘	2 枚	南北朝時代 慶応元年（1389）	半期 1 枚ずつ	
104	◎ 刺繍三昧耶幡	17旒のうちの2旒	鎌倉時代（13～14世紀）	半期 1 旒ずつ	
105	◎ 錦幡（刺繍三昧耶幡附属）	2 旒	鎌倉時代（13～14世紀）	半期 1 旒ずつ	
106	三鈇杵	1 口	奈良時代または中国・唐（8世紀）		
107	三鈇杵（奈良県弥山山頂出土）	1 口	奈良～平安時代（8～9世紀）		
108	◎ 四大明王五鈇鈴	1 口	中国・唐（8世紀）		
109	五大明王五鈇鈴	1 口	朝鮮半島・高麗（10～14世紀）		
110	五鈇鈴	1 口	平安時代（12世紀）		
111	◎ 独鈇鈴・三鈇鈴・宝珠鈴	3 口	平安～鎌倉時代（12世紀）		
112	宝珠鈴	1 口	鎌倉時代（13世紀）		
113	割五鈇杵	1 口	鎌倉時代（13世紀）		
114	五鈇杵	1 口	平安時代（12世紀）		
115	三鈇杵	1 口	平安時代（12世紀）		
116	独鈇杵	1 口	平安時代（12世紀）		
117	木製宝珠杵	1 口	平安時代（12世紀）		
118	金剛盤	1 面	鎌倉時代 正和3年（1314）		
119	羯磨	1 口	中国・唐（9世紀）		
120	火舎	1 基	鎌倉時代（14世紀）		
121	六器	6 口	鎌倉時代（14世紀）		
122	華瓶	2 口	鎌倉時代（14世紀）		
123	転法輪筒	1 合	平安時代（12世紀）		
124	説相箱	1 口	室町時代 延徳3年（1491）		
125	◎ 宝相華文如意	1 柄	平安時代（12世紀）		
126	孔雀文磬	1 面	南北朝時代 正平12年（1357）		
127	蓮華形磬	1 面	鎌倉時代（13世紀）		
128	◎ 入峰斧	1 口	南北朝～室町時代（14世紀）		
129	◎ 釣燈籠	1 基	室町時代 永禄7年（1564）		

第6章 地獄極楽と浄土教の美術

この世を離れるときに、阿弥陀如来の来迎を受け、極楽浄土へ往生するという願いは、特に平安時代中期以降、日本人の仏教信仰の中核を占めるようになります。天台宗の高僧・源信（942～1017）が著した『往生要集』には、極楽浄土の素晴らしい光景とともに、生前の行いによって輪廻するという六つの世界（六道）のうち、とりわけ恐怖に満ちた地獄の光景が詳細に記されています。人々に死後のイメージを具体的に提示するこの書物は、長らく阿弥陀来迎図や阿弥陀浄土曼荼羅、地獄絵など、浄土教美術を豊かに生み出す源泉であり続けました。奈良博を代表する名品である地獄草紙と辟邪絵 143 は、ともに後白河法皇のコレクションだった六道絵巻に含まれていた可能性があり、平安びとの心をとらえた浄土教美術のすがたを今に伝えています。



130	阿弥陀如来坐像	1 軀	平安時代（12世紀）		
131	地藏菩薩立像	1 軀	鎌倉時代（13世紀）		
132	地藏・龍樹菩薩坐像	2 軀	平安時代（12世紀）		
133	◎ 阿弥陀浄土曼荼羅	1 幅	平安時代（12世紀）		

番号	指定	作品名	員数	時代	前期 (7/6～7/28)	後期 (7/31～8/25)
134	◎	二河白道図	1 幅	鎌倉時代（13～14世紀）		
135		阿弥陀聖衆来迎図	1 幅	鎌倉時代（13～14世紀）		
136		山越阿弥陀図	1 幅	鎌倉時代（14世紀）		
137		刺繍阿弥陀三尊来迎図	1 枚	桃山時代（16～17世紀）		
138		刺繍釈迦阿弥陀二尊像	1 幅	鎌倉時代（13～14世紀）		
139	◎	地藏菩薩像	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
140	◎	地藏菩薩像	1 幅	鎌倉時代（14世紀）		
141	◎	十王図	10幅のうち 2 幅	中国・南宗（13世紀）		
142	◎	十王図	3 幅のうち 2 幅	中国・元（14世紀）		
143	●	辟邪絵	5 幅のうち 3 幅	平安～鎌倉時代（12世紀）		
144	◎	沙門地獄草紙（沸屎地獄）	1 幅	平安～鎌倉時代（12世紀）		
145		泣不動縁起	2 巻	室町時代（15世紀）		
146		矢田地蔵縁起	1 巻	室町時代（16世紀）		

第7章 神と仏が織りなす美

日本古来の神々に対する信仰は、長らく日本人の宗教観念の基層を形づくってきました。しかし六世紀に大陸から仏教が伝来すると、神と仏は互いに影響しあい、融合しながら、神仏習合しんぶつしゅうごうという新たな信仰世界を生み出します。東大寺の大仏造立に際して八幡神が助力したことに象徴されるとおり、神仏習合は奈良時代の国家仏教形成とともに著しく進展し、この頃から仏像の影響を受けながら、神の姿を造形化した神像も盛んに制作されるようになりました。また中世には、「本源的な存在である仏（本地）が、人々を救うため仮にこの世に現した姿が日本の神（垂迹）である」という信仰が急速に広まっていきます。この「本地垂迹説」にもとづいて、神社景観の中に祭神の本来の姿とされた仏・菩薩を描く宮曼荼羅など、垂迹美術がさまざまに生み出されていったのです。



147		男神・女神坐像	2 軀	平安時代（12世紀）		
148	●	薬師如来坐像	1 軀	平安時代（9 世紀）		
149		伽藍神立像	1 軀	鎌倉時代（13世紀）		
150		毘沙門天立像	1 軀	鎌倉時代（13世紀）		
151	◎	阿弥陀如来鏡像	1 面	平安時代（12世紀）		
152		蔵王権現鏡像	1 面	平安時代（12世紀）		
153	◎	山王十社本地懸仏	1 面	鎌倉時代 建保 6 年（1218）		
154		熊野三所権現御正体	1 面	鎌倉時代（13世紀）		
155		春日神鹿舎利厨子	1 基	鎌倉～南北朝時代（14世紀）		
156	◎	春日龍珠箱	2 合	南北朝時代（14世紀）		
157	◎	山王宮曼荼羅	1 幅	南北朝時代（14世紀）		
158	◎	生駒宮曼荼羅	1 幅	鎌倉時代（14世紀）		
159		春日宮曼荼羅	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
160		春日社寺曼荼羅	1 幅	鎌倉時代（14世紀）		
161		春日千体地藏図	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
162	◎	春日鹿曼荼羅	1 幅	鎌倉時代（13～14世紀）		

第8章 高僧のすがた

インド、中国、日本各地に仏教を伝え広めた高僧たちへの尊敬は、その容姿を礼拝・供養の対象とする肖像を数多く生み出しました。特に仏教の教を集成・発展させ一宗一派を開いた祖師そしの肖像は、その宗派に所属する弟子たちにより重要な礼拝対象として継承され、法脈を正統に受け継いだことの証とされたのです。例えば鎌倉時代に新しく中国から伝わった禪宗では、師から弟子への仏法の継承がひとときわ重んじられ、伝法の証明として、師が自らの肖像画である頂相ちんそうに自筆の賛文を記して弟子に与えることが行われました。また、高僧が自ら筆を執った書状や法語などの墨跡が、筆者の精神や人間性を体現するものとして尊重され、後世にはそれ自体が鑑賞の対象として珍重されるようになります。



163		玄奘三蔵像	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
164	◎	道宣律師像	1 幅	鎌倉時代（14世紀）		
165		南無仏太子立像	1 軀	鎌倉時代（13～14世紀）		
166		明恵上人夢記（四月二十二日）	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
167	◎	慈円僧正懷紙	1 幅	鎌倉時代（13世紀）		
168	◎	親鸞聖人像	1 幅	鎌倉～南北朝時代（14世紀）		
169	◎	明空法師像	1 幅	鎌倉～南北朝時代（14世紀）		
170	◎	兀庵普寧墨跡 与東巖慧安尺牘	1 幅	中国・南宋 咸淳 6 年（1270）		
171	◎	清拙正澄墨跡 法語	1 幅	鎌倉時代 嘉暦 2 年（1327）		

番号	指定	作品名	員数	時代	前期 (7/6～7/28)	後期 (7/31～8/25)
172	◎	白衣観音像	1 幅	鎌倉時代 (13～14世紀)		
173	◎	水月観音像	1 幅	鎌倉時代 (14世紀)		
174	●	山水図 (水色巒光図)	1 幅	室町時代 文安 2 年 (1445)		
175	◎	大道一以像	1 幅	室町時代 明德 5 年 (1394)		
176	◎	一休宗純像	1 幅	室町時代 文安 4 年 (1447)		
177	◎	安東門恵像	1 幅	鎌倉時代 元徳 2 年 (1330)		

第 9 章 南都ゆかりの仏教美術

奈良時代に都が置かれた奈良の地は、平安京に都が移った後も仏教文化の中心であり続け、中世には北の京都に対して南都と呼ばれるようになります。特に東大寺、興福寺、春日大社に隣接して奈良博が立地するこの場所は、まさに南都の仏教文化が行き交った中心に位置しています。明治維新後の神仏分離政策などの影響により、流出の危機に瀕していた奈良の社寺の文化財を保存・公開するため、明治28年（1895）にこの地に奈良博（帝国奈良博物館）が開館したことは決して偶然ではありません。奈良博所蔵品の多くは戦後に収集されたものですが、こうした歴史的経緯もあって、東大寺や興福寺、法隆寺など南都の社寺にゆかりの深い仏教美術がコレクションの中核を占めているのです。



178	◎	愛染明王坐像 快成作	1 軀	鎌倉時代 建長 8 年 (1256)		
179	◎	蔵王権現立像	1 軀	平安時代 (12世紀)		
180-1	◎	千手観音像	1 幅	平安時代 (12世紀)		
180-2	◎	十一面観音菩薩立像	1 軀	平安時代 (12世紀)		
181	●	十一面観音像	1 幅	平安時代 (12世紀)		
182	◎	東大寺戒壇院扉絵図	1 巻	平安時代 (12世紀)		
183		東大寺戒壇院扉絵図	2 幅	鎌倉時代 (12～13世紀)		
184	◎	華嚴五十五所絵 (不動優婆夷)	1 面	平安時代 (12世紀)		
185		不空罽索観音像	1 幅	平安～鎌倉時代 (12世紀)		
186		弥勒来迎図	1 幅	南北朝時代 (14世紀)		
187		興福寺講堂曼荼羅	1 幅	鎌倉時代 (13世紀)		
188		東大寺縁起	1 幅	室町時代 (16世紀)		
189	◎	法華経 (建治二年東大寺僧宗性発願経)	8 巻のうち 1 巻	鎌倉時代 建治 2 年 (1276)		
190	◎	華嚴十重唯識瑞鑑記 巻第四 凝然筆	1 巻	鎌倉時代 正応 5 年 (1292)		
191		三宝絵断簡 (東大寺切)	1 幅	平安時代 保安元年 (1120)		
192		中臣祐賢和歌懷紙 (春日懷紙)	1 幅	鎌倉時代 (13世紀)		
193		額安寺大塔供養願文	1 巻	鎌倉時代 (14世紀)		
194	◎	首懸駄都種子曼荼羅厨子	1 基	鎌倉時代 (13～14世紀)		
195		独鈷杵	1 口	鎌倉時代 (13世紀)		

第10章 北陸ゆかりの至宝

壱田永年私財法 (743年) の制定により、私的な田地の開墾が認められたことを受けて、東大寺は、八世紀半ばに越前・越中地方に壱田地を求めました。そこには大仏造立と、それを維持する費用を調達する目的もあったと推測されます。本章では最初に奈良時代の寺院荘園図を紹介します。壱田と未開墾地の区分や、地形を絵図で記録したものなど、奈良時代の測量記述法や山水表現を知ることができる点で、極めて貴重な資料といえます。

石川県関連としては、まず白山信仰に関わる彫刻類を紹介します。白山が信仰の対象となったのは、7世紀半ば頃と推定されます。その後奈良・平安時代を通して山岳信仰が興隆し、白山も修験道場として全国的に知られるようになりました。

続いて、石川県に所在する浄土宗や日蓮宗の寺院が所蔵し、奈良国立博物館に寄託している仏画 2 点を紹介します。いずれも平安時代の来迎思想や鎌倉時代の法華経信仰の重要な所産として注目されます。



196	●	越中国射水郡鳴戸村壱田図	1 鋪	奈良時代 天平宝字 3 年 (759)		
197	◎	越中国礪波郡石栗村官施入田図 (東大寺開田図)	1 幅	奈良時代 天平宝字 3 年 (759)		
198	◎	越前国坂井郡高串村東大寺大修多羅供分田図 (東大寺開田図)	1 幅	奈良時代 天平神護 2 年 (766)		
199	◎	越中国射水郡鳴戸村壱田図 (東大寺開田図)	1 幅	奈良時代 (8 世紀)		
200	◎	越中国射水郡鹿田村壱田図 (東大寺開田図)	1 幅	奈良時代 (8 世紀)		
201		菩薩立像	1 軀	奈良時代 (8 世紀)		
202		金剛童子立像	1 軀	鎌倉時代 (13世紀)		
203	◎	観音経絵 (石川・本土寺蔵)	2 幅	鎌倉時代 (13世紀)		
204	◎	阿弥陀三尊来迎図 (石川・心蓮社蔵)	1 幅	平安時代 (12世紀)		
205		埴輪犬 (伝茨城県東海村出土)	1 軀	古墳時代 (6 世紀)		